

学会記事

第21回徳島医学会賞受賞者紹介

徳島医学会賞は、医学研究の発展と奨励を目的として、第217回徳島医学会平成10年度夏期学術集会（平成10年8月31日、阿波観光ホテル）から設けられることとなりました。年2回（夏期及び冬期）の学術集会での応募演題の中から最も優れた研究に対して各期ごとに大学関係者から1名、医師会関係者から1名～2名に贈られます。

第21回徳島医学会賞は次の2名の方々の受賞が決定いたしました。受賞者の方々には第238回徳島医学会学術集会（冬期）授与式にて賞状並びに副賞（賞金10万円及び記念品）が授与されます。

尚、受賞論文は本号225～235頁に掲載しております。

（大学関係者）



氏 名：モハマド ゴラム
ホサイン
生 年 月 日：1972年4月20日
出 身 大 学：バングラデシュ
ダッカ ジャハング
ナガー大学 薬学部
所 属：徳島大学大学院口腔
科学教育部分子薬理
学分野

研 究 内 容：ヒト下垂体腺腫におけるサイクリン依存性キナーゼ抑制因子 p18^{INK4C} の変異、遺伝子発現、CpG メチル化状態について

受賞にあたり：

この度は、第21回徳島医学会賞に選考いただき、選考して頂きました先生方ならびに関係各位の皆様には厚く御礼申し上げます。

私は、ヒト下垂体腺腫におけるサイクリン依存性キナーゼ抑制因子 p18^{INK4C} の役割を検討しました。

ヒト下垂体腺腫は頭蓋内腫瘍の10-15%を占め、深刻な症状を示す可能性があります。p16^{INK4A}、p15^{INK4B}、p18^{INK4C} と p19^{INK4D} から構成される INK 4 群は細胞周期の G1/S 移行の調節因子です。p18^{INK4C} は癌抑制遺伝子として作用していると考えられています。下垂体腺腫においては、p16^{INK4A} と p15^{INK4B} の epigenetic な遺伝子不活性化が報告されています。しかしながら、p18^{INK4C} の遺伝子不活性化プロファイルに焦点を合わせた研究は行

われていませんでした。

私達は下垂体腺腫における p18^{INK4C} の体細胞変異、p18^{INK4C} mRNA レベル、p18^{INK4C} 遺伝子プロモーターのメチル化状態を検討しました。p18^{INK4C} の体細胞変異や欠失は認められませんでした。すべての NF-FSH と ACTH 腺腫において p18^{INK4C} mRNA レベルが大幅に減少していることが確認されました。この mRNA 減少にプロモーターのメチル化は関与していませんでした。

今後、下垂体の腫瘍化機構を詳細に検討し、早期診断や治療に結びつけたいと考えています。

最後になりましたが、本研究を行うにあたり、多くのご指導、ご助言をいただきました吉本教授、岩田助教に感謝いたします。

（医師会関係者）



氏 名：宮内吉男
生 年 月 日：昭和30年1月17日
出 身 大 学：徳島大学医学部医学
科
所 属：徳島市医師会もの忘れ
検診委員会、宮内
クリニック

研 究 内 容：徳島市でのもの忘れ検診 4年間の結果
と今後の課題

受賞にあたり：

この度は、第21回徳島医学会賞に選考していただき、誠にありがとうございます。選考委員の先生方をはじめ関係各位の皆様に深く感謝申し上げます。

徳島市は平成20年4月現在で人口約26万人、65歳以上の高齢者が57,000人で、高齢化率は22.2%です。厚生労働省によると、高齢者人口の約7%が認知症とされ、徳島市ではおよそ4,000人弱が罹患していると考えられます。今後さらに増加していくことが予想されます。

徳島市医師会では平成16年より認知症啓発のための市民公開講座「もの忘れフォーラム」を開催すると共に、かかりつけ医による「もの忘れ検診」を、医師会の単独事業として開始しました。2年間の実績により平成18年度より徳島市の基本健康診査の中に組み込まれています。この4年間の活動を通して、認知症に対する市民への啓発並びにかかりつけ医の理解と対応力の向上に寄与したと考えています。

最後になりましたが、本研究・活動を行うにあたり、多くの方々のご指導、ご助言をいただきましたことに厚く御礼申し上げます。